



東京支部学生会 学生会報 第20号
Student Journal 2015

特 集

『学生員の活動』

一般社団法人 電子情報通信学会
東京支部学生会

電子情報通信学会 東京支部学生会 学生会報 第 20 号 目次

平成 26 年度東京支部運営委員・学生会運営委員・学生会顧問一覧	... 3
幹事校代表挨拶（巻頭文）	稲垣 慶太郎（横浜国立大） ... 5
幹事団顧問の挨拶	鎌倉 浩嗣（千葉工業大） ... 6
幹事団顧問の挨拶	河野 隆二（横浜国立大） ... 8
特集①:平成 26 年度東京支部学生会事業紹介	... 10
講演会 A	岸 湧大・富樫 隆久・石原 功基（茨 城 大） ... 11
講演会 B	田中 幸治（拓 殖 大） ... 12
見学会 A	浅井 万平（千 葉 大） ... 13
見学会 B	松島 寛季（東京工科大） ... 14
幹事団	川上 智恭（千葉工業大） ... 15
SCI	奥山 敦司（日 本 大） ... 15
学生会報	井上 孝重（神奈川工大） ... 16
研究発表会	百瀬 和也（明 治 大） ... 16

特集②：東京支部学生ランチ紹介	... 17
千葉大学 Student Branch	
	若月 峻 (千 葉 大) ... 18
UEC Student Branch	
	山村 光卓 (電 通 大) ... 19
日本大学 CST Student Branch	
	奥山 敦司 (日 本 大) ... 20
日本女子大学学生ランチ	
	樋口 美麗 (日本女子大) ... 21
学会紹介	... 22
学生員の特典	... 25
学生員の入会方法	... 26
卒業される学生さんへ	... 30
編集後記	... 31

平成 26 年度東京支部運営委員

(敬称略・順不同)

支部長	西原 基夫	日本電気	委員	依田 秀彦	宇都宮大
次期支部長	相澤 清晴	東大	委員	西崎 博光	山梨大
庶務幹事	前原 文明	早大	委員	河野 隆二	横浜国立大
庶務幹事	上原 一浩	日本電信電話	委員	有馬 卓司	東京農工大
会計幹事	吉本 直人	千歳科学技術大	委員	岡村 敦	三菱電機
会計幹事	下西 英之	日本電気	委員	河尻 祐子	日本電信電話
委員	植之原裕行	東京工業大	委員	小舘 亮之	津田塾大
委員	木村 淳一	日立製作所	委員	田中 聡	NTTドコモ
委員	黒田 道子	東京工科大	委員	流田理一郎	KDDI 研究所
委員	高橋 応明	千葉大	委員	松井 知子	統計数理研究所
委員	田中 淳	富士通研究所	委員	荒木 徹	群馬大
委員	水野 秀之	日本電信電話	委員	鎌倉 浩嗣	千葉工大
委員	藤芳 明生	茨城大			

以上 25 名

平成 26 年度東京支部学生会運営委員

(敬称略・順不同)

委員長	稲垣慶太郎	横浜国大	委員	Don-Mello Emmanuel	神奈川工大	委員	百瀬 和也	明大
副委員長	川上 智恭	千葉工大	委員	山野辺史久	神奈川工大	委員	島田 直紀	明大
書記	保坂 雄大	千葉工大	委員	松本 恵一	上智大	委員	黒田 将貴	東京都市大
委員長補佐	佐藤 克憲	横浜国大	委員	山元 雄太	上智大	委員	下総 諒	東京都市大
委員	福谷 友宏	横浜国大	委員	下山田祐太	千葉大	委員	間山 京将	東京都市大
委員	秋田谷朋紀	千葉工大	委員	浅井 万平	千葉大	委員	関口 高穂	東京都市大
委員	阿部 泰輔	千葉工大	委員	村田 雄太	東京電機大	委員	磯野 薫	埼玉大
委員	岩崎 剛輝	千葉工大	委員	斉藤 敬	東京電機大	委員	金子 拓馬	埼玉大
委員	蛭原 勝徳	千葉工大	委員	鞠 鵬	東京電機大	委員	豊島 雅大	埼玉大
委員	中野 敦貴	千葉工大	委員	長久保咲絵	日本女子大	委員	半田 俊介	埼玉大
委員	奥山 敦司	日大	委員	樋口 美麗	日本女子大	委員	大島 慶太	都立産技高専
委員	杉山 克俊	日大	委員	岸 湧大	茨城大	委員	芹澤 和明	都立産技高専
委員	山下 大地	日大	委員	富樫 隆久	茨城大	委員	池田 諭	山梨大
委員	斎藤 智之	防衛大	委員	石原 功基	茨城大	委員	滝沢 晃弘	山梨大
委員	小倉 雅樹	防衛大	委員	高野 博文	成蹊大	委員	宮平 祥吾	山梨大
委員	高橋 一輝	群馬大	委員	笠井 康希	東海大	委員	小嶋 宏誌	山梨大
委員	渡邊 健太	群馬大	委員	松田 正明	東海大	委員	松島 寛季	東京工科大
委員	鈴木あやこ	電通大	委員	兼田 祐介	東海大	委員	三枝 龍太郎	東京工科大
委員	山村 光卓	電通大	委員	勝木 俊太	東海大	委員	佐々木晴信	東京工科大
委員	熊田 春人	中央大	委員	中村 浩希	東海大	委員	仲又 暁洋	東大
委員	村上 大樹	中央大	委員	曲 文婧	東海大	委員	田中 幸治	拓殖大
委員	井上 孝重	神奈川工大	委員	鈴木 彩	明大	委員	太田 潤	拓殖大
委員	中野 智仁	神奈川工大	委員	福島 直也	明大	委員	南川 俊	拓殖大
委員	山田 拓実	神奈川工大	委員	津村 康介	明大	委員	川端 萌美	早大
委員	藤川 丈自	神奈川工大						

以上 73 名

平成 26 年度東京支部学生会顧問

(敬称略・順不同)

顧問	野澤 昭雄	青学大	幹事	鎌倉 浩嗣	千葉工大
顧問	鈴木 健仁	茨城大	顧問	小林 一哉	中大
顧問	横田 浩久	茨城大	顧問	小館 亮之	津田塾大
顧問	荒川 臣司	茨城高専	顧問	河崎 雅人	帝京科学大
顧問	熊谷 毅	宇都宮大	顧問	松浦 基晴	電通大
顧問	清水 隆志	宇都宮大	顧問	野村 英之	電通大
顧問	平岡 隆晴	神奈川大	顧問	藤井 威生	電通大
顧問	奥村 万規子	神奈川工科大	顧問	濱本 和彦	東海大
顧問	塩川 茂樹	神奈川工科大	顧問	川原 圭博	東大
顧問	元木 誠	関東学院大	顧問	永田 明德	東京工科大
顧問	阿部 清彦	関東学院大	顧問	黒川 弘章	東京工科大
顧問	河西 憲一	群馬大	顧問	田中 晶	東京高専
顧問	弓仲 康史	群馬大	顧問	山岸 昌夫	東工大
顧問	重野 寛	慶大	顧問	吉野 隆幸	東京電機大
顧問	田中 敏幸	慶大	顧問	岡野 好伸	東京都市大
顧問	篠原 克幸	工学院大	顧問	高野 邦彦	都立産技高専
顧問	木村 雄一	埼玉大	顧問	柴崎 年彦	都立産技高専
顧問	坂本 政祐	埼玉工大	顧問	横井 健	都立産技高専
顧問	三好 匠	芝浦工大	顧問	田中 聡久	東京農工大
顧問	相馬 隆郎	首都大	顧問	藤沢 匡哉	東京理科大
顧問	田川 紀夫	首都大	顧問	池口 徹	東京理科大
顧問	下村 和彦	上智大	顧問	佐伯 勝敏	日大
顧問	小林 学	湘南工科大	顧問	黒岩 孝	日大
顧問	花山 英治	職業大	顧問	木許 雅則	日本工大
顧問	杉山 賢二	成蹊大	顧問	小川 賀代	日本女子大
顧問	高見 一正	創価大	顧問	亀井 利久	防衛大
顧問	林 誠治	拓殖大	顧問	李 磊	法政大
顧問	大竹 敢	玉川大	顧問	井家上哲史	明大
顧問	山崎 浩一	玉川大	顧問	本間 聡	山梨大
顧問	関屋 大雄	千葉大	顧問	田中 良明	早大
顧問	伊與田光宏	千葉工大	幹事	河野 隆二	横浜国立大
顧問	佐波 孝彦	千葉工大			

以上 63 名

平成 26 年度学生会報巻頭文

学生会運営委員長

稲垣 慶太郎

このたびは、学生会報を手にとりいただき誠にありがとうございます。

電子情報通信学会東京支部学生会は、東京支部に所属する学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦を図ることを目的に、電子情報通信学会東京支部の下部組織として平成 7 年に設立されました。設立以来、毎年多くの学生員が学生会に参加し、学生自身で学生員のために何ができるかを考えながら様々な活動を行い、おかげをもちまして、本年度で発足 20 年の節目を迎えました。学会は新たな科学技術や学術的な内容を発表し議論する場であるとともに、異なる大学の学生同士が友好を深める場であると思います。現在活躍されている研究者の方々に比べれば、学生の力は小さいものかもしれませんが、今後の学会を担っていくのは間違いなく我々学生一人一人です。今は未熟な身かも知れませんが、積極的に学会に関わり、研鑽を積みながら、学生同士の友好を深めることは、自身の向上だけでなく学会の発展、ひいては日本の発展に貢献するものだと考えます。より良い未来の実現のために学術の発展を持って貢献するという学会の理念の下、ひとりでも多くの学生のお役に立てるよう、今後も研究発表会を始め、講演会、見学会などの各種イベントを企画していきますので、活用いただけると幸いです。

末尾ながら、学生会報も 20 回目の刊行となりました。日頃から多大なご支援を頂いている電子情報通信学会東京支部の方々、学生会の顧問の先生方、学生会活動にご協力を頂いた関係各部、この学生会報を手にとりいただきご覧になっている方々に心よりお礼を申し上げ、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

平成 27 年 1 月吉日

東京支部学生会諸君へ！

千葉工業大学 情報工学科

鎌倉 浩嗣

本学生会は、みなさんの諸先輩方のおかげをもちまして本年度で 20 年目を迎え、学生会報も 20 号となりました。とくに運営委員に携わった方々の尽力のおかげで東京支部学生会は益々活発になっており本当にありがとうございます。

学会活動の一つの醍醐味は、日頃接する友人・仲間といった人間関係とは違うもう 1 つのフィールドをもっておくということにあると思います。学生会という機会を通じてより刺激的で豊かな学生生活を送るよい機会にできるようにしてもらえたらと思います。

学生会活動は、研究発表会、見学会、講演会などの企画及び実施や会報誌の発行です。研究発表という視点からすると、逆の立場、つまり、研究成果や紹介の場を他の会員のために用意する立場と言えます。各事業の実施にはあたっては、学生であっても、学会の目的を斟酌し、事業の性質やその効果を自分なりにイメージし、仲間と一緒に具体化していくことでしょう。他校の先生や企業の研究者に依頼したり、費用の負担があれば各関係者と調整が必要になることもあるでしょう。例えば見学会の事業であれば、見学施設の候補探しから始まり、つてを頼って関係者へ依頼をしたりといろいろな段取りを経て実施にまで至るでしょう。このとき、何のためにやっているかと言えば、参加者を満足させるためであると言えます。事業を通じて、参加者からまた参加したいなどと感謝されれば、みなさんの評価は上がります。さらに見学先の事業や研究内容が多くの人に広まったということで、見学施設の企業や関係者にとっても有意義なものであったと言えます。両者にとって成功裡に事業を終えることができれば、そこに同じ価値観や目的をもつ多くの人が集まるきっかけとなり、それらの活動の積み重ねによって、学会の価値も高められるでしょう。

ともすれば自分の研究成果だけを追い求め、それ以外には注力しないというきらいの人もいるかもしれませんが。そのような姿勢の研究者の成果は、果たして真に役に立つ研究に結びつくのでしょうか？ 自分の専門分野で研究発表や研究室での活動に注力することは第一義的な本分であり、本分をおろそかに

したのでは指導教員からは嗜められることでしょう。しかしながら、限られた交友関係の中で研究に近視眼的にとどまるのではなく、そのフィールドに加えて学生会活動にも参加してみましょう。同世代の仲間と、学会という 1 つの目的で協力し合う機会を通じて、利他の基準をもって、豊かな人格形成の場を得てもらえたらと思います。

東京支部学生会諸君に一喝！

横浜国立大学大学院工学研究院

河野 隆二

学会は自己アピールの場、一期一会を大切に。

皆さんに人生、学会の先輩として一言お話します。最近では、ゆとり世代に育った若者は叱ってはいけない、ほめ育てねばいけない、また、アスペルガー症候群だの、パワハラ、アカハラだの我々は腫れものに触るかのように対応を迫られています。もちろん、その背景には複雑な社会の問題があり、若者自身がすべての問題があるとは言えません。しかし、私のように外国の大学で働き、現在も国内外で日本人と外国人の様々な若者と接し、日々比較できる立場から言えることは、何か日本人の若者は相対的に脆弱な気がします。もっと、打たれ強くあつて欲しいと思います。

では、どのようにして打たれ強くなるのでしょうか。基本は、現在自分が置かれた環境や状況とは異なる世界、具体的には国外でのインターンシップやワーキングホリデイなどを活用し、他大学や企業に身を置き、緊張の日々を過ごすことでしょう。また、学生会では他大学の同世代の人とお話することで、自分と何が同じで、何が異なるのかを認識できれば、自分を客観的に知ることができるでしょう。また、研究会や大会では企業や大学のプロの研究者、エンジニアと年齢を超えて交流でき、人脈もできます。もし、諸君が優れた発表をすれば、企業や大学の方々の目にとまり、就職に有効に働くでしょう。

電子情報通信学会の最も素晴らしい活動は、毎月各地で開催される研究会であります。学会は自分の所属する組織（大学の研究室や企業の部や課など）では会うこともない方に、思いもしない視点からの質問や厳しい指摘を得られる他流試合の場であり、議論を戦わせ、一人では思いつくことが容易でないヒントを得たり、研究仲間や競走相手と巡り会える素晴らしい巡り会の場であります。

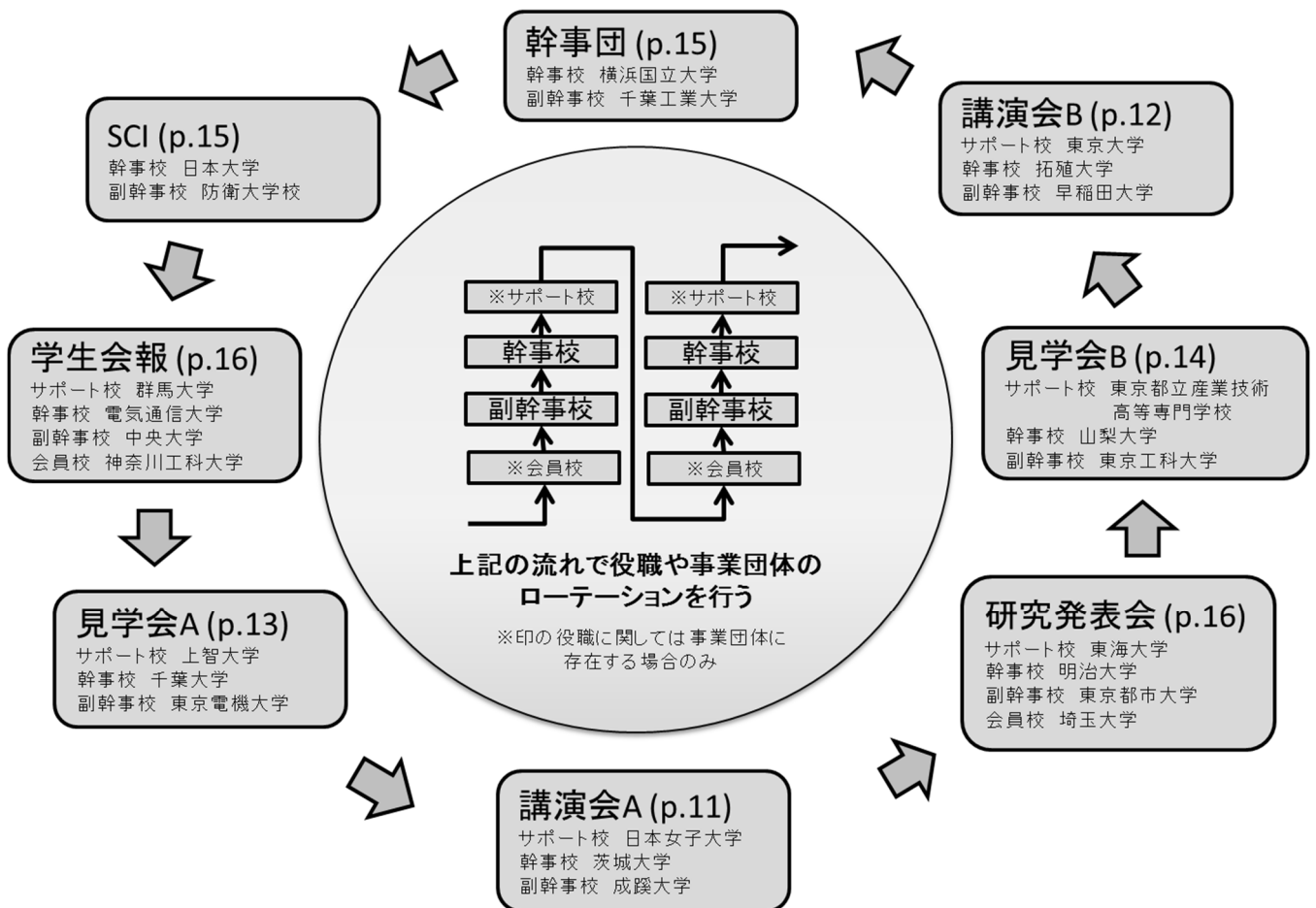
特に、「尖った人材」として、人とは異なる考えや活動を恥じることも、慎むのではなく、自らが信じることを述べると共に、自らと異なる意見や価値を理解し認めることにより、世界を牽引するリーダーとなれます。さらに、自然科学ばかりだけでなく、経済、経営、法律、政治などの社会科学も身につけ、文学、音楽や芸術を楽しみ、あらゆる事に好奇心旺盛で、発想と心の豊かさを身につけるた

めに、是非、学会を活用してください。そして、きっと豊かで明るい世界を切り拓きましょう。

特集①

平成 26 年度 東京支部学生会事業紹介

東京支部学生会には 24 校が参加しており、8 つの事業団体に分かれ、役職に就いています。
ここでは、今年度の各事業団体の所属校と、活動について紹介します。



講演会 A グループ

活動概要

日本を担う若手人財の今後の活躍のための契機の間を設けることを目的に、株式会社 日立製作所の社長・会長を歴任され、現相談役の庄山悦彦様を講師に招き講演会を開催いたしました。社長時代の経験談などを交えたご講演、さらに質疑応答として、参加者との一対一での対話の時間も頂きました。

今年度の実施内容

題目：「日本のモノづくりの心」

講演者：庄山 悦彦 氏（株式会社 日立製作所）

日時：平成 26 年 12 月 12 日（金） 14:00 ～ 15:00

会場：機械振興会館 地下 2 階 B2-1

感想

庄山様の技術者時代のご経験、日本の科学技術の特長と課題、そして若手人財に求められる力などについてお話していただきました。“まったく新しいモノを創造する力”こそ、将来の日本を担う私たちに求められている力であり、その力は“気づき”と“知恵”を意識して養うことで磨かれる、というお話が印象的でした。そのほかにも、日本の科学技術を長年牽引されてきた庄山様の価値観や心構えに肌で触れることができ、大変貴重な 1 時間となりました。満席となる 56 名の方々にご参加いただき、その全ての皆様にとって、得るものが多い講演会であったと感じています。

最後になりますが、ご多忙の中、ご講演いただきました庄山悦彦様に厚く御礼申し上げます。また、本講演会開催にご協力いただきました事務局の皆様、当学生会運営委員の皆様、共催をいただきました茨城大学 工学部 電気電子工学科 鈴木研究室、および茨城大学 工学部 平成生まれの会に深く感謝致します。



講演会当日の打ち合わせ



メンバー

幹事校：茨城大学 岸 湧大 富樫 隆久 石原 功基

副幹事校：成蹊大学 高野 博文

サポート校：日本女子大学 長久保 咲絵 樋口 美麗

(文責：茨城大学 岸、富樫、石原)

講演会 B グループ

活動概要

我々講演会 B グループは、学生会の主旨である電子情報通信学会学生員の活動を盛んにし、かつ学生員相互の親睦をはかることを目的に、講演会の開催を通してこれを達成するための活動を行う。

今年度の実施内容

題目：

「M2M / IoT が 拓くビッグデータの未来予測」

講演者：荒木 健吉氏

(ソフトバンクテレコム株式会社

新規事業営業本部 事業戦略企画室 室長)

日時：平成 26 年 12 月 13 日 13:20 ～ 14:50

会場：拓殖大学 文京キャンパス C401

感想

平成 26 年 12 月 13 日、拓殖大学文京キャンパス C401 にて、「M2M / IoT が 拓くビッグデータの未来予測」と題しまして講演会を開催しましたことを報告します。



荒木 健吉様のご講演の様子

本公演では M2M / IoT を解説しながら、通信キャリアがどのように情報を集めて、ビッグデータとして活用しているのか。また、今後どのように利用していくのかをお話していただきました。ヘルスケアやつながりやすさを例に上げて、通信の知識がなくても理解できるように説明していただいたので、非常に分かりやすい内容でした。質疑応答では、プライバシー問題や地域の情報格差にお答えいただき、充実した講演会となりました。最後となりましたが、ご多忙の中、講演していただいた荒木健吉様には深く御礼申し上げます。また、本公演の開催にあたり、ご協力を頂案した事務局も皆様、当学生会幹事団の皆様、講演会 B グループの皆様、SCI グループの運営委員の皆様、そして本公演に参加して頂いた皆様に深く感謝いたします。

メンバー

幹事校：拓殖大学

田中 幸治, 太田 潤, 南川 俊

副幹事校：早稲田大学

川端 萌美

サポート校：東京大学

仲又 暁洋



集合写真

(文責：拓殖大学 田中 幸治)

見学会 A グループ

活動概要

我々見学会 A グループは、企業研究所の研究活動について理解を深めることを目的に、(株)日立製作所 横浜研究所を見学いたしました。

今回は以下の 6 つの研究について説明して頂きました。

- ・ 鉄道安定輸送ソリューション
鉄道ダイヤ修正支援システム
- ・ SCM(サプライチェーンマネジメント)シミュレーション技術
拠点の設置、輸送手段の最適化
- ・ 低遅延映像伝送技術
車載システム等に應用
- ・ 業務用空調機器設置サポートシステム
ネットワークを用いて空調機の設置を支援
- ・ 産業システム向け通信プロトコル変換技術
規格の異なるプロトコルを統一
- ・ 無線マルチホップネットワーク技術
基地局を必要としない無線ネットワーク



対話会の様子

感想

今回説明していただいた内容は、学生向けに分かりやすい内容になっていました。今まで企業の研究に触れる機会が無かったので、とても参考になりました。

見学会の最後に研究員の方と対話会を行いました。そこでは普段の研究で心がけていること、就職活動へのアドバイスなどを聞くことができ、とても有意義な時間になったと思います。

また、研究室内部の見学会をしたいという意見も寄せられました。

今回の見学会では、企業の方とのやり取りを通じて、私自身とても貴重な経験をさせていただいて感じております。今回の見学会に大変なご協力をいただきました(株)日立製作所 横浜研究所の皆様へ心より感謝申し上げます。

メンバー

幹事校：千葉大学

下山田 祐太、浅井 万平

副幹事校：東京電機大学

村田 雄太、斎藤 敬、鞠 鵬

サポート校：上智大学

松本 恵一、山元 雄太



参加者と紹介頂いた研究員の集合写真

(文責：千葉大学 浅井)

見学会 B グループ

活動概要

我々見学会 B グループは通信の分野の研究者を目指す学生へむけて、研究職の現場を見学し研究職に対しての理解を深めていただくことを目的とし、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）様のご協力のもと見学会を開催いたしました。

今年度の実施内容

見学先：独立行政法人 情報通信研究機構

日時：平成 26 年 10 月 29 日 14:00 ～16:00

感想

当日は山梨大学の学生の方々を中心に、合計 6 名の参加がありました。NICT 様での見学会では、宇宙光通信地上センターや日本標準時展示室などの施設を見学させて頂き、地球と宇宙の双方向間通信と日本標準時についてお話を伺うことができました。

宇宙光通信地上センターでは、人工衛星と望遠鏡を利用した地上と宇宙間での双方向間通信により、災害時などでも安定した通信を行えること、この技術を一般家庭に普及させることを研究されていました。

次に、日本標準時展示室では、日本標準時の生成・維持・供給の方法や、実際に日本の標準時を決定している部屋をガラス越しに覗くことができました。

日本標準時といった私たちに深くかかわる事柄への通信技術の応用や、日本で 3 番目に大きな望遠鏡を見ることができました。また、研究者の方から貴重なお話を聞かせていただき、とても充実した見学会となりました。



日本標準時展示室での見学風景

メンバー

幹事校：山梨大学

池田 諭、滝沢 晃弘、宮平 祥吾、
小嶋 宏誌

副幹事校：東京工科大学

佐々木 晴信、松島 寛季、
三枝 龍太郎

サポート校：都立産技高専

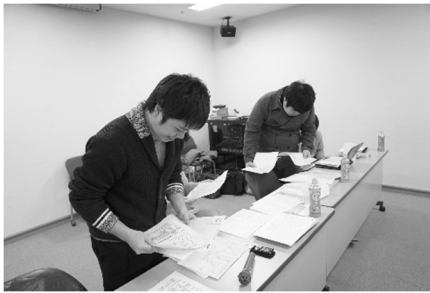
大島 慶太、芹澤 和明

(文責：東京工科大学 松島)

幹事団グループ

幹事団の主な活動内容は、全事業グループをまとめることです。学生会では、幹事団が指揮をとり、各事業グループにおける取り組みの進捗確認および意見交換をします。意見交換することにより各事業グループの今後の活動方針を定めます。

幹事団は学生会の運営を支える重要な役割を担っているため、皆責任感を持ち積極的に活動しています。



▲学生会での活動風景

メンバー

幹事校：横浜国立大学

稲垣 慶太郎、佐藤 克憲、福谷 友宏

副幹事校：千葉工業大学

秋田谷 朋紀、阿部 泰輔、

岩崎 剛輝、蛭原 勝徳、

川上 智恭、中野 敦貴、

保坂 雄大



(文責：千葉工業大学 川上)

SCI グループ

SCI グループでは、電子情報通信学会東京支部学生会の広報を目的として活動を行っております。

主な活動内容は、各事業グループの事業案内のポスター作成や、見学会や講演会グループなどが企画した内容を、全学生員及び部外に向けた広報を行っております。また、電子情報通信学会東京支部学生会 HP の更新や修正を行い、データベースの管理を行っております。



▲作成を行った広報用ポスター

メンバー

幹事校：日本大学

奥山 敦司、杉山 克俊、山下 大地

副幹事校：防衛大学

斎藤 智之、小倉 稚樹

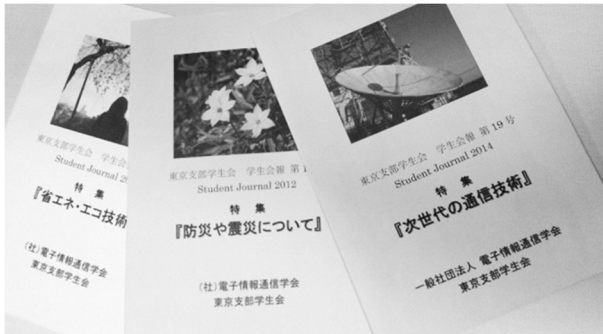


(文責：日本大学 奥山敦司)

学生会報グループ

我々学生会報グループは、学生会が開催するイベント事業や各分野の第一線で活躍されている研究者の方が専門に研究されている内容を紹介する特集論文等を掲載した学生会報を発行し、学生の方々に学生会の仕事、ひいては学会への関心を向けてもらうことを目的として学生会発足当初から活動を続けてきました。

今年で学生会報発行開始から 20 年目の節目の年を迎えますが、この先停滞することなく新たなことにも積極的に挑戦していこうと考えています。



メンバー

幹事校： 電気通信大学

鈴木 あやこ、山村 光卓

副幹事校： 中央大学

熊田 春人、村上 大樹

会員校： 神奈川工科大学

井上 孝重、藤川 丈自、Don-Mello Emmanuel

山野辺 史久、中野 智仁、山田 拓実

サポート校：群馬大学

高橋 一輝、渡邊 健太郎



(文責：神奈川工科大学 井上)

研究発表会グループ

本グループは、毎年 2 月末～3 月上旬頃に、電子情報通信分野を専攻している学生を中心に集めた研究発表会を企画・実行しています。

我々は、この研究発表会にご参加頂いた学生の皆様が、他校の学生や教授および企業でご活躍されている方々との交流を通して、学術的な見識を深める場を設けることを目的として活動しています。



▲研究発表会の様子

メンバー

幹事校：明治大学

島田、鈴木、津村、福島、百瀬

副幹事校：東京都市大学

黒田、下総、間山、関口

会員校：埼玉大学

磯野、豊島、半田

サポート校：東海大学

兼田、中村、鈴木、笠井



(文責：明治大学 百瀬和也)

特集②

東京支部 学生ブランチ紹介

電子情報通信学会には、学生員が運営する学生ブランチが各大学に設置されており、それぞれ特色ある活動に取り組んでいます。

ここでは、東京支部に所属している 4 大学の学生ブランチについて紹介します。

千葉大学 ... p.18

電気通信大学 ... p.19

日本大学 ... p.20

日本女子大学 ... p.21

千葉大学 Student Branch

千葉大学 Student Branch は 2006 年 6 月に設立され、2014 年で 9 年目を迎えます。

これまでの活動内容

- ・企業から講師をお招きした講演会
- ・他大学合同富士登山

2010 年度から神奈川工科大学、千葉工業大学と千葉大学による合同富士登山を企画しております。



3 大学合同富士登山_富士登山道入り口にて



千葉大構成員集合写真_富士山頂にて

今後の活動予定

- ・講演会
情報通信をテーマに外部より講師をお招きし、ご講演を開催予定です。
- ・他大学合同富士登山
毎年恒例の企画になっており、参加した学生にもご好評をいただいております。今後は色々な大学の研究室の学生とも合同で企画できたらと考えております。

活動を通して得られたこと

普段あまり交流できない他大学の研究室の学生との交流ができ、とてもいい刺激になったと参加した学生から聞くことができました。ここで知り合った他大学の学生と研究会や就職活動の際にまた会うことができ、スムーズに情報交換ができたとも伺っております。

人数・構成

D3 : 2 人
M2 : 4 人
M1 : 3 人
B4 : 5 人

さいごに

今後も、学生同士の交流を活発に行い、千葉大学 Student Branch が一層魅力的なものになるよう頑張っていきたいと思っております。

(文責：千葉大学 若月 峻)

UEC Student Branch

活動目的

UEC Student Branch(電気通信大学学生ブランチ)は 2008 年に発足し、今年で 6 年目を迎えました。我々は、主に、

- ・学生員に対して研究や就職を支援する機会を提供することを通して、電通大における電子情報通信学会の活動を盛んにする
- ・共に活動することにより、学生員が相互に交流する機会を設け、親睦を深める
- ・構成員が自主的に事業を企画および運営することを通して、主体性やコミュニケーション力といった自己研鑽をはかる

ことを目的として、M2 : 4 名、M1 : 9 名、B4 : 2 名の合計 15 名で活動を行っています。

活動内容

今年度の活動は、年度の初めにまず我々自身の設立理念を見つめ直し、組織全体で活動目的を共有するとともに、それを達成するために何を行うべきかを考えて年間スケジュールを組み立てるところから始めました。その結果、活動の対象と具体的なイベントを次のように設定しました。

- ・大学院入試を控えた B4 向け
…5 年分の過去問について解答例を作成し、公開する院試勉強会(6~7 月)
- ・卒業研究の研究室配属を控えた B3 向け
…専攻に属する約 60 の研究室に学生目線で答えてもらったアンケートを公開する、研究室員による配属相談会(11 月)
- ・就職活動を控えた M1 向け
…大学院生に特化した就職支援を行って

いる企業と共催し、内定を得た M2 から院生目線でエントリーシートの添削を行う会(2 月)

- ・電通大の学生や教職員全体向け
…SNS を通じて学会および学生員の活動について周知をはかる広報活動(通年)

これらのイベントについて、それぞれ 3~4 名の担当メンバーを中心に企画を行い、2 週間に 1 回程度のミーティングにおいて全体で意見を深めながら運営していきました。



就活支援イベントの様子

活動を通して得られたこと

どのイベントについても、50~60 名の方(対象全体の 3~4 割に相当)にお越しいただきました。多くの参加者から好評の声をいただいたことで、大きな達成感を得ることができました。企画・運営を行う過程で、対象をしっかりと見定めて目的を設定し、その達成のための手段を入念に検討して実行し、フィードバックから次の機会へと繋げる一連の流れを経験したことで、対象のことを常に考えながら、自分を含めた組織として目的を実現するための行動力が身につきました。

また、メンバーは情報・通信工学専攻を中心に 8 つの研究室から集まっているので、広い範囲で交流を深め合うことができ、さらにその中で各自の研究テーマについて互いにヒントを得ることができています。

(文責：電気通信大学 山村 光卓)

日本大学 CST Student Branch

設立理念

日本大学 CST Student Branch (以下、SB) は、2011 年に設立し活動を行っております。

SB の設立理念は、学生ブランチの理念に従い、“学生員のための身近な学会活動の一環として、学校のサークル活動の感覚で、活動計画から会計報告に至るまで、学生員が自主的に運営することを目的”として活動を行っております。

実績と活動内容

・平成 24 年度

プレゼンテーションスキルの向上を目的とした研究発表会を行いました。

研究発表会では、学生員以外にも参加して頂き、SB を PR するとともに、普段交流がない他学科の学生と意見交換することで、互いに良い刺激になりました。また、大学院生は英語による発表を行うことで、スキル向上につながりました。更に、研究発表会終了後には懇親会を設け、学生間の親睦を深めることができました。

・平成 25 年度

国際学会発表へのスキル向上を目的とし、英語発表練習を行いました。

英語発表では、外部から講師をお招きし、1 件 1 件コメントして頂きました。英語による口頭発表のポイントを教えて頂き、学生にとって、英語発表への手助けや、きっかけ作りになりました。また学生員以外にも参加して頂き、他学科の学生との交流により、学生間で有意義な時間を共有できました。

・平成 26 年度

現在の技術動向を調査し最先端の技術に触れ、知識の幅を広げることを目的とした講演会を行いました。

講演会の内容は、SB の各学生員に関連のある内容(電子・情報・機械)を勉強したいと考え、集積化に限界が近づく半導体集積回路技術や通信技術に関する講演をして頂きました。最先端の情報に触れることで、知識を深める良い機会となりました。

活動を通して感じたこと

SB 代表として事業の企画運営を行い、勉強だけでは得ることができない、良い自己研磨の場となりました。例えば、何もない状態から企画を立てる力、企画の打合せを行う際の方とのコミュニケーションの重要性を再確認しました。また、企画運営をする上で、スケジュール管理や人をまとめて動かす力に関しては大きく向上したと感じております。また、電子情報通信学会東京支部学生会に参加させて頂いている経験を活かすことで、多くの学生や先生方に参加して頂くことができました。その際に、受け身で物事を考えるのではなく、自分から進んで行動することの重要性を実感することができました。

今後はこの経験を活かし、学内だけではなく他大学の方との交流も含めた活動を行いたいと考えています。

平成 26 年度：人数・構成

学生員：24 人(代表 1 人、構成員 23 人)

顧問：3 人

(文責：日本大学 奥山 敦司)

日本女子大学 学生ランチ

設立理念

研究室を超えた学生の交流を促すことを目的に、日本女子大学大学院理学研究科数理・物性構造科学専攻に在籍している物理情報コースのメンバーを中心に、交流会や研究発表会を開催しています。

本年度の活動内容

本年度は以下の2つの会を開催しました。

- ・M2 中間発表後の交流会(10月中旬)
- ・修・卒論前の研究発表会(12月初旬)

M2 中間発表後の交流会と修論・卒論前の研究発表会について紹介します。

M2 中間発表後の交流会の様子

本学では毎年10月中旬に修士2年の中間発表会が行われます。交流会は、この発表会後に開催され、中間発表のお疲れ様会と研究室を超えた学生の交流会を兼ねています。ランチ会員のみなならず、院生、院進学予定者を中心とした学部生、先生方にご参加頂きました。

- ・新任の長谷川先生のお話

今年度から女子大に着任されたIEICE会員の長谷川治久先生から、ご自身の経歴や研究内容、女子大に着任されての感想などのお話を伺い



ました。長年の企業での経験から、働くことの楽しさ、厳しさなどの質問にも答えていただきました。授業等ではなかなか伺う機会のないお話ばかりで、長谷川先生の人柄に触れる良い契機となりました。

- ・フリートーク

参加者同士で今後のキャリアパスについてフリートークを行いました。ライブイベントを乗り越えて一生仕事を続けたいと考えている学生が多く、そういった学生から就職活動や院進学について多くの質問がありました。楽しく情報交換をして、実になるお話がた

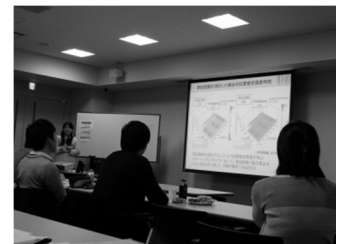


くさんできました。この交流会を通して、学内の縦横の繋がりが一層強くなったと感じています。



修・卒論前の研究発表会の様子

卒論や修論発表を控えた学生の研究発表会を行いました。研究発表会にはOGや企業の方々にもご参加頂き、質疑応答の場では発表者へ多くの質問を投げかけて頂きました。日頃のゼミとは違った環境で研究発表をすることができ、学生にとって自身の研究や発表の仕方に関して大変良い刺激を受ける機会となりました。



人数・構成

M2 : 3人 M1 : 1人
B4 : 4人 卒業生 : 2人
顧問 : 1人

(文責：日本女子大学 樋口 美麗)

学 会 紹 介

当学会は大正6年(1917年)5月に「電信電話学会」として発足した時に始まりました。学問・技術・産業の進歩は著しく、その間に於ける当学会の果たしてきた先導的役割は真に大きなものがあったと言えます。相続く技術革新の中で、当学会も時代を先取りした進化を着実に遂げて参りました。昭和12年(1937年)には「電気通信学会」と改名し、戦後の半導体エレクトロニクスの登場を迎え、昭和42年(1967年)には「電子通信学会」と改称し、昭和62年(1987年)には既に学会活動の重要分野を占めていた「情報」を名称に組み入れ「電子情報通信学会」と改称しました。また、研究専門分野ごとにそれぞれ特徴ある独自の企画等で活発な学会活動をしたいという気運が高まり、平成7年4月からソサイエティ制を導入し、現在、四つのソサイエティ(基礎・境界／通信／エレクトロニクス／情報・システム)と一つのグループ(ヒューマンコミュニケーション)を発足させております。

当学会の会員は電子・情報・通信の研究技術者達によって構成されており、昭和40年代に急速に発展したエレクトロニクス、さらには近年のコンピュータと電気通信の融合を目指した情報通信に関する研究活動の活発化を反映して、会員数も約3.5万人を擁し、工学関係の学会としては、我が国有数の大規模学会となっております。

学会の会員になりますと、次のような特典が与えられます。

(1) 毎月学会誌が配布され、論文誌(和文・英文)オンライン版が閲覧できます。

学会誌は、各分野から選出の委員約50名で構成された会誌編集委員会において編集され、第一線で活躍されている研究者・技術者らによって平易な記述で執筆されています。また、論文誌は会員から投稿された論文を、各専門分野のエキスパート約1,100名の査読委員が査読し、この結果に基づき論文誌編集委員会が審議し、採録として決定された論文が掲載されています。この論文誌は、諸外国の研究者の論文にも数多く引用されている権威あるものです。

(1)-1 学会誌

学会誌には、新しい技術情報、最近のトピックス、将来動向、総合的プロジェクト、注目すべき話題の特集など多岐にわたり種々の記事が掲載されています。

* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

特に学生員に対して、『学生/教養のページ』欄を設け、新技術の紹介や学生員への有益な記事を最も平易に原理的に記述したもの、及び技術史、技術論、用語、規格等を平易に解説しており、知識の向上を図れるよう編集されています。

(1)–2 和文論文誌, 英文論文誌

和文論文誌・英文論文誌には、会員からの投稿による『論文』、『レター』と、論文誌編集委員会から執筆を依頼する『招待論文』、『解説論文』が掲載され、また特集号の企画も編集されています。

論文は投稿者自身の研究・開発・検討等をまとめた報告であり、新規性、有効性、信頼性に優れているものです。また、レターは“研究速報”、“紙上討論”、“問題提起”に分類され掲載されています。

和文論文誌・英文論文誌に学生員として研究成果を投稿することをお勧め致します。

なお、英文論文誌については、従来の IEICE Transactions のほか、ペーパーレス速報誌の IEICE Electronics Express (略称 ELEX) が月 2 回発行、Nonlinear Theory and Its Application (略称 NOLTA) が季刊発行、IEICE Communications Express (略称 ComEX) が随時発行されています。

(2) 研究会, 大会などにおいて論文の発表および聴講ができます。

当学会には、学問分野別の活動組織として、基礎・境界／通信／エレクトロニクス／情報・システムの四つのソサイエティとヒューマンコミュニケーショングループがあり、活発な活動を行っています。活動の一つに研究会があり、それぞれ毎月研究会、ワークショップ、勉強会、フレッシュマンセッション等を開催し、熱心な質疑応答を行い会員の研究活動の推進に役立っております。

これらの研究会は、本会の会員であれば自由に発表・聴講・討論に参加することができます。

また、春と秋に大会を開催しており、会員が日頃の研究活動成果を大会の会場で発表し、質疑応答など直接意見の交換ができます。

(3) 各支部が主催するシンポジウム, 講習会, 講演会, 見学会などに無料または低料金で参加できます。

現在、全国に10支部が有り、それぞれの地域の実情に応じた活動(シンポジウム, 講習会, 講演会, 見学会等)を行っております。これらの会は学生相互の交流や、就職・卒業研究・レポート等に役に立ちます。

(4) 各種割引が受けられます。

(4)–1 単行本, ハンドブックなどの本会発行図書を会員特価で購入できます。

当学会では、最新の技術を解説した単行本, 専門分野別に編集した大学シリーズおよび各種ハンドブックを発行しております。会員になりますと単行本を 2 割引で購入できます。特に、単行本の「学术论文の書き方・発表の仕方」は有用です。出版物を紹介した図書目録も発行(無料)しておりますのでご必要の方はお申し出下さい。

単行本の御注文 (<http://www.ieice.org/jpn/books/bookorder.html>)

* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

(4)-2 ホテル, レンタカー, 旅行等の優待割引制度があります.

当学会では, 毎年発行している会員証を利用してホテル, レンタカー, 旅行等の優待割引も受けられます. 詳細は下記 URL をご参照下さい.

(<http://www.ieice.org/jpn/service/advantages.html>)

(5)学生会活動に参加できます.

『学生会』は, 本学会の支部(10支部)ごとに学生員の内から委員長・副委員長・委員が任命されている組織で, 自主企画による各種の“学生会活動”(研究発表, 学術講習会, 講演会, 見学会, 親睦会等の開催)を行っています(詳細は各支部学生会の活動をご覧下さい).

(<http://www.ieice.org/jpn/gakuseikai.html>)

『学生会』活動に必要な経費は, 学会から支出されます. なお, 各支部に『学生会顧問』の先生がいて, 『学生会』の活動を指導・支援しております.

また, 各支部の『学生会』活動については, 支部所在地にお問合せ下さい.

(<http://www.ieice.org/jpn/about/syozai.html>)

学会の活動は学問・技術の同好の人達が相集い, それぞれ所属組織の束縛を離れて個人個人が機会均等に参画し, 何物にも束縛されない自由闊達な討議と研究活動を展開し, 学問・技術の進歩と産業の発展に寄与することを目的としております. 当学会の活動を中心として我が国の電子情報通信技術は大きく発展と飛躍をしてきており, 若い学生諸君の入会で更なる発展が起こることを期待する次第です.

下記一覧は, 平成 26 年 3 月末現在の大学別学生員数です.

順位	大学名	学生員数	順位	大学名	学生員数
1	電気通信大学	122	11	京都大学	71
2	大阪大学	115	12	法政大学	69
3	早稲田大学	113	13	東京電機大学	67
4	東京工業大学	107	14	千葉大学	64
5	北海道大学	90	15	東北大学	62
6	名古屋工業大学	87	16	九州大学	61
7	東京理科大学	76	17	名古屋大学	59
7	芝浦工業大学	76	18	岡山大学	57
7	東京大学	76	19	慶應義塾大学	54
10	横浜国立大学	72	20	徳島大学	51

学生員総数 4,469 名

* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

学 生 員 の 特 典

特典多し、君もすぐに学生員になろう！！

(1) 学生員から正員に昇格時の会費を全員 2 年間半額

学生員の方が卒業等で学生員から正員に移行される場合、学部卒業、修士課程修了、博士課程前期修了の方を対象に、基本会費を 2 年間に限り、正員会費 (13,000 円) の半額の 6,500 円と致します。(事務局で対応)

(2) IEEE 会員の場合、入会時 2 年間会費半額 (IEEE 会員証コピー提出)

(3) 本会発行図書を会員特価で購入

本会発行の書籍を、原則定価の 2 割引で購入できます。また、各種ハンドブックは会員特価があります。

(4) 大会講演論文集の DVD が学生員特別割引価格

学生員は、聴講参加費が無料となります。別途、大会論文集 (DVD 版) が学生員特別割引価格で購入できます。

(5) 友人を入会に誘うには、大会時が有利

非会員の学生は、大会会場で学生員入会手続きをすれば (3) の学生員割引が適用できます。

(6) 会員メール転送サービス

本会ドメイン名のメールアドレス (@m.ieice.org) を取得されますとメール転送サービスが利用できます。詳細は、<http://www.ieice.org/jpn/service/mailad-j.html> をご参照下さい。

(7) 会費のお支払い方法

銀行/郵便局の口座からの会費の自動引落しを選ばれますと、基本会費から、5%割引になる特典がございます。手続きの詳細は、<http://www.ieice.org/jpn/service/kaihishiharai/koza.html> をご参照下さい。(毎年 10 月 1 日締切)

(8) ホテル、レンタカー、旅行などの割引

詳細は <http://www.ieice.org/jpn/service/advantages.html> をご参照下さい。

~~~~~

問合先 〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内  
一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail : [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) Tel (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659

月～金 (土日祝日は除く) 9:00～17:30

---

\* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

## 学生員の入会方法

入会申込は、Web上からのお手続きとなります。下記のURLからお手続きください。

<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

(「Webからの入会方法(正員・学生員)」をクリックしてください。)

受付締切日までに、**Webでのご登録と会費のご入金**が事務局で確認できたものについて、手続きさせていただきます。入会時の会費は下記をご参照の上、希望入会月の料金をお支払いください。

### 【入会時の会費について】

(単位 : 円)

| 入会月 | 受付締切り | 会 費          | 入会月 | 受付締切り  | 会 費                                       |
|-----|-------|--------------|-----|--------|-------------------------------------------|
| 4月  | ～3月1日 | <b>4,500</b> | 10月 | ～9月1日  | <b>2,250</b>                              |
| 5月  | ～4月1日 | <b>4,500</b> | 11月 | ～10月1日 | <b>2,250</b>                              |
| 6月  | ～5月1日 | <b>4,500</b> | 12月 | ～11月1日 | <b>2,250</b>                              |
| 7月  | ～6月1日 | <b>3,375</b> | 1月  | ～12月1日 | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |
| 8月  | ～7月1日 | <b>3,375</b> | 2月  | ～1月1日  | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |
| 9月  | ～8月1日 | <b>3,375</b> | 3月  | ～2月1日  | <b>5,625</b><br>(当年度 1,125 円+翌年度 4,500 円) |

### 【参考】学生員の年会費について

| 会員種別 | 資 格                      | 入会金 | 年会費    |
|------|--------------------------|-----|--------|
| 学生員  | 大学院，大学学部，短大，高専，工業高校の在学学生 | 不要  | 4,500円 |

### 【ご注意】

入金の確認に4～5日を要しますので、受付締切りの前月25日までにお支払いください。  
(例) 入会月が7月(受付締切り6月1日)の場合、5月25日までに3,375円を振り込むこと)

### 【連絡先】

何かございましたら、下記までご連絡ください。

**一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課** (月～金(土日祝日は除く))

9:00～17:30 TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659 E-mail:kaiin@ieice.org

## 興味分野(研究会名)一覧 (興味分野欄用) 平成 26 年 4 月～

|          |                       |          |                            |
|----------|-----------------------|----------|----------------------------|
| <b>A</b> | <b>基礎・境界</b>          | <b>C</b> | <b>エレクトロニクス</b>            |
| CAS      | (回路とシステム)             | EMD      | (機構デバイス)                   |
| IT       | (情報理論)                | MR       | (磁気記録・情報ストレージ)             |
| R        | (信頼性)                 | SCE      | (超伝導エレクトロニクス)              |
| US       | (超音波)                 | EID      | (電子ディスプレイ)                 |
| EA       | (応用音響)                | ED       | (電子デバイス)                   |
| NLP      | (非線形問題)               | CPM      | (電子部品・材料)                  |
| VLD      | (VLSI 設計技術)           | EMT      | (電磁界理論)                    |
| ISEC     | (情報セキュリティ)            | SDM      | (シリコン材料・デバイス)              |
| SIP      | (信号処理)                | MW       | (マイクロ波)                    |
| WBS      | (ワイドバンドシステム)          | ICD      | (集積回路)                     |
| MSS      | (システム数理と応用)           | OME      | (有機エレクトロニクス)               |
| TL       | (思考と言語)               | OPE      | (光エレクトロニクス)                |
| SITE     | (技術と社会・倫理)            | LQE      | (レーザ・量子エレクトロニクス)           |
| SSS      | (安全性)                 | EST      | (エレクトロニクスシミュレーション)         |
| ITS      | (ITS)                 | MWP      | (マイクロ波・ミリ波フォトニクス)          |
| SIS      | (スマートインフォメディアシステム)    |          |                            |
| IMQ      | (イメージ・メディア・クオリティ)     | <b>D</b> | <b>情報・システム</b>             |
| RCC      | (高信頼制御通信)             | MBE      | (ME とバイオサイバネティクス)          |
| BioX     | (バイオメトリクス)            | LOIS     | (ライフインテリジェンスとオフィス情報システム)   |
|          |                       | IE       | (画像工学)                     |
| <b>B</b> | <b>通信</b>             | NLC      | (言語理解とコミュニケーション)           |
| A・P      | (アンテナ・伝播)             | CPSY     | (コンピュータシステム)               |
| SANE     | (宇宙・航行エレクトロニクス)       | COMP     | (コンピューテーション)               |
| SAT      | (衛星通信)                | AI       | (人工知能と知識処理)                |
| EMCJ     | (環境電磁工学)              | SS       | (ソフトウェアサイエンス)              |
| NS       | (ネットワークシステム)          | DE       | (データ工学)                    |
| IN       | (情報ネットワーク)            | PRMU     | (パターン認識・メディア理解)            |
| CS       | (通信方式)                | DC       | (ディペンダブルコンピューティング)         |
| EE       | (電子通信エネルギー技術)         | NC       | (ニューロコンピューティング)            |
| OCS      | (光通信システム)             | KBSE     | (知能ソフトウェア工学)               |
| RCS      | (無線通信システム)            | SP       | (音声)                       |
| CQ       | (コミュニケーションクオリティ)      | ET       | (教育工学)                     |
| PN       | (フォトリックネットワーク)        | MI       | (医用画像)                     |
| OFT      | (光ファイバ応用技術)           | SWIM     | (ソフトウェアインタプライズモデリング)       |
| ICM      | (情報通信マネジメント)          | RECONF   | (リコンフィギャラブルシステム)           |
| MoNA     | (モバイルネットワークとアプリケーション) | ICSS     | (情報通信システムセキュリティ)           |
| IA       | (インターネットアーキテクチャ)      | IBISML   | (情報論的学習理論と機械学習)            |
| SR       | (ソフトウェア無線)            | EMM      | (マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント) |
| ANS      | (知的環境とセンサネットワーク)      | CNR      | (クラウドネットワークロボット)           |
| SRW      | (短距離無線通信)             | SC       | (サービスコンピューティング)            |
| MICT     | (ヘルスケア・医療情報通信技術)      |          |                            |
| WPT      | (無線電力伝送)              | <b>H</b> | <b>ヒューマンコミュニケーショングループ</b>  |
|          |                       | HCS      | (ヒューマンコミュニケーション基礎)         |
|          |                       | HIP      | (ヒューマン情報処理)                |
|          |                       | MVE      | (マルチメディア・仮想環境基礎)           |
|          |                       | WIT      | (福祉情報工学)                   |



## 論文誌専門分野分類表 (平成 22 年 10 月～)

| ソサイエティ     | 種 類 | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 基礎・境界    | A   | 電気音響 音響一般 騒音 振動 音声 聴覚 超音波 デジタル信号処理 アナログ信号処理 システムと制御 非線形問題 回路理論 回路解析 VLSI設計技術とCAD 数値計算 数理計画法 アルゴリズムとデータ構造・計算複雑度 グラフとネットワーク 信頼性 保全性 安全性 情報セキュリティ基礎 情報理論 符号理論 通信理論 信号理論基礎 スペクトル拡散技術 移動情報通信・パーソナル通信 高度交通システム (ITS) 画像 視覚 コンピュータグラフィックス(CG)基礎 人工知能 ヒューマンコミュニケーション ニューラルネットワーク及び生物学 マルチメディア環境技術 情報倫理・情報通信倫理 コンカレント工学 測定・計測 基礎理論                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|            | EA  | Engineering Acoustics, Noise and Vibration, Speech and Hearing, Ultrasonics, Digital Signal Processing, Analog Signal Processing, Systems and Control, Nonlinear Problems, Circuit Theory, VLSI Design Technology and CAD, Numerical Analysis and Optimization, Algorithms and Data Structures, Graphs and Networks, Reliability, Maintainability and Safety Analysis, Cryptography and Information Security, Information Theory, Coding Theory, Communication Theory and Signals, Spread Spectrum Technologies and Applications, Mobile Information Network and Personal Communications, Intelligent Transport System, Image, Vision, Computer Graphics, Language, Thought, Knowledge and Intelligence, Human Communications, Neural Networks and Bioengineering, Multimedia Environment Technology, Communication Environment and Ethics, Concurrent Systems, Measurement Technology, General Fundamentals and Boundaries |
| B 通信       | B   | 基礎理論 電子通信エネルギー 伝送方式・機器 光ファイバ 光ファイバ伝送 ネットワークシステム ネットワーク インターネット ネットワーク管理・オペレーション アンテナ・伝搬 電磁環境・EMC 無線通信技術 地上無線通信 放送技術 衛星通信 計測 探査 航行・誘導・制御方式 宇宙利用システム マルチメディアシステム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|            | EB  | Fundamental Theories for Communications, Energy in Electronics Communications, Transmission Systems and Transmission Equipment for Communications, Optical Fiber for Communications, Fiber-Optic Transmission for Communications, Network System, Network, Internet, Network Management/Operation, Antennas and Propagation, Electromagnetic Compatibility (EMC), Wireless Communication Technologies, Terrestrial Wireless Communication/Broadcasting Technologies, Satellite Communications, Sensing, Navigation, Guidance and Control Systems, Space Utilization Systems for Communications, Multimedia Systems for Communications                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| C エレクトロニクス | C   | 電磁界理論 レーザ・量子エレクトロニクス 光エレクトロニクス マイクロ波, ミリ波 超音波エレクトロニクス 電子回路 電子材料 有機エレクトロニクス 電子部品 機構デバイス 半導体材料・デバイス 集積エレクトロニクス 電子管, 真空・ビーム技術 電子ディスプレイ 超伝導エレクトロニクス 記録・記憶技術 電子計測・制御                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|            | EC  | Electromagnetic Theory, Lasers, Quantum Electronics, Optoelectronics, Microwaves, Millimeter-Waves, Ultrasonic Electronics, Electronic Circuits, Electronic Materials, Organic Molecular Electronics, Electronic Components, Electromechanical Devices and Components, Semiconductor Materials and Devices, Integrated Electronics, Electron Tubes, Vacuum and Beam Technology, Electronic Displays, Superconducting Electronics, Storage Technology, Electronic Instrumentation and Control                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| D 情報・システム  | D   | 情報・システム基礎 計算機システム ソフトウェアシステム ソフトウェア工学 データ工学, Web 情報システム 情報ネットワーク ディペンダブルコンピューティング人工知能, データマイニング ヒューマンコンピュータインタラクション オフィスインフォメーションシステム, e-ビジネスモデリング 教育工学 福祉工学 パターン認識 音声, 聴覚 画像・映像処理 画像認識, コンピュータビジョン コンピュータグラフィックス マルチメディア処理 自然言語処理 バイオサイバネティクス, ニューロコンピューティング 生体工学 音楽情報処理 感性情報処理                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|            | ED  | Fundamentals of Information Systems, Computer System, Software System, Software Engineering, Data Engineering, Web Information Systems, Information Network, Dependable Computing, Artificial Intelligence, Data Mining, Human-computer Interaction, Office Information Systems, e-Business Modeling, Educational Technology, Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, Pattern Recognition, Speech and Hearing, Image Processing and Video Processing, Image Recognition, Computer Vision, Computer Graphics, Multimedia Pattern Processing, Natural Language Processing, Biocybernetics, Neurocomputing, Biological Engineering, Music Information Processing, Kansei Information Processing, Affective Information Processing                                                                                                                                                                                 |

**【お知らせ】****● 「本会ネットワークサービスのシングルサインオン（SSO）！」**

いままで別々のIDとパスワードで提供しておりました会員の皆様のマイページ、Transactions Online、メール転送サービスの登録・変更や論文誌への投稿等各種サービスは、H23 年 5 月 24 日からシングルサインオン(SSO)による認証に切り替わりました。

なお、シングルサインオン(SSO) 認証になりますと、会員の皆様がマイページでご利用頂いているID、パスワードに統一されております。

**詳細はこちら：** <http://www.ieice.org/jpn/service/member/mypage.html>

**（お願い）** 各支部からのご案内や、和・英論文誌の目次をメール配信しております（和・英論文誌は毎月配信）ので、メールアドレス等、登録内容にご変更がございましたら、できるだけお早目に、ご変更のお手続きをお願い致します。

**【各支部に含まれる都道府県名一覧】**

| 支部名 | 都道府県名                            |
|-----|----------------------------------|
| 北海道 | 北海道                              |
| 東北  | 青森県、秋田県、岩手県、福島県、宮城県、山形県          |
| 東京  | 茨城県、神奈川県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、栃木県、山梨県 |
| 信越  | 長野県、新潟県                          |
| 東海  | 愛知県、岐阜県、静岡県、三重県                  |
| 北陸  | 石川県、富山県、福井県                      |
| 関西  | 大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県、和歌山県         |
| 中国  | 岡山県、島根県、鳥取県、広島県、山口県              |
| 四国  | 愛媛県、香川県、高知県、徳島県                  |
| 九州  | 大分県、沖縄県、熊本県、鹿児島県、佐賀県、長崎県、福岡県、宮崎県 |

**【問合先】**

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) TEL (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659

月～金（土日祝日を除く）9：00～17：30

\* 『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

## 卒業される学生さんへ

- (1) 上級課程へ進学される場合は、  
引き続き学生員としての継続ができます。(要申請)
- (2) 学生の時に会員になれば、  
卒業しても2年間の会費は正員の半額になります。
- (3) 入会されますと会員の資格は自動継続されます

### (1) 上級課程へ進学される場合は、引き続き学生員としての継続ができます。

上級課程へ進学し在学される場合は、本人のお申し出により正員(13,000 円)でなく、引き続き学生員(4,500 円)で継続することができますので、学生員申請用紙(<http://www.ieice.org/jpn/service/shikakuhenkou.html>)に記入し、2月20日(毎年)までにご連絡下さい。

### (2) 正員入会時の割引 入会后2年間会費半額

本会主催の大会、研究会、支部大会等で発表した学生が卒業等の後2年以内に本会に入会する場合には、会費を入会后2年間に限り、年会費の半額といたします(博士課程修了の者は除く)。

(<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/guideline.html>)

### (3) 学生の時に会員になれば、卒業しても2年間の会費は正員の半額になります。

学生員の方が卒業等で学生員から正員に昇格される場合に、会費を卒業後2年間に限り、正員会費 13,000 円を半額の 6,500 円と致します(博士後期課程修了の方は除く)ので、学生の時に会員になられることを薦めます。

また、今後就職等で住所が変更される場合は会員としての権利継続のためにも、必ずご連絡下さい。  
(<http://www.ieice.org/jpn/service/todokede/main.html>)

(4) 一度入会されますと会員の資格は継続されますので、退会される場合は会費を完納の上、退会届のフォームに記入し、会員課までご連絡下さい。

<http://www.ieice.org/jpn/service/taikaitodoke.html>

### 【登録情報の確認・ご変更はマイページをご利用下さい】

ご自分の登録情報を、マイページで確認することができます。また、送付先住所、学生員申請、オンラインジャーナル登録情報の変更、退会届、等変更可能な項目の内容変更ができます。ぜひご利用下さい。

<http://www.ieice.org/jpn/service/member/mypage.html>

**連絡・問合せ先** 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館内

一般社団法人電子情報通信学会 会員サービス部 会員課

E-mail : [kaiin@ieice.org](mailto:kaiin@ieice.org) Tel (03) 3433-6691 FAX (03) 3433-6659

月～金(土日祝日は除く) 9:00～17:30

\*『学生のみなさんへ』 <http://www.ieice.org/jpn/katsudou/pdf/booklet.pdf> より

## 編集後記

東京支部学生会 学生会報 第 20 号 いかがでしたでしょうか？

今回の学生会報は、「学生員の活動」をテーマに選びました。他の学生が一体どのような研究外活動をしているのかをお伝えしたい、また活動してきた学生の皆様の記録になるような会報にしたい、と思い作成しました。記事でも触れたように、学生会は 8 つの事業団体に分かれて合計 70 名以上の学生が活動をしています。さらに、各大学に存在する学生ランチでも多くの学生が活動をしていることがわかります。今回ご紹介したのはほんの一部ですが、少しでも、これだけ多くの学生がそれぞれ考え、協力し、成果を上げているということを知っていただければ本会報の役割は十分に果たせたと言えます。そして、これまで活動してきた皆様が何年後かにこの冊子を見て懐かしんでいただければ、本会報の役割は十二分に果たせたと言えるでしょう。

末筆ながら、本会報を作成するにあたりご協力頂いた皆様へ心より感謝申し上げます。特に、急なお願いにも関わらずご執筆を快諾してくださった各学生ランチの皆様、本当にありがとうございました。また、学生会運営委員の皆様、学会事務局のご担当者様、そして学生会報担当の皆様の御協力のおかげで本会報を作成することができました。ここに感謝の意を表します。誠にありがとうございました。

鈴木 あやこ



平成 27 年 2 月 7 日 初版発行

平成 27 年 2 月 9 日第 2 版発行

編集：鈴木 あやこ 山村 光卓（所属：電気通信大学）

発行 一般社団法人電子情報通信学会 東京支部学生会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

Tel (03) 3433-6691 Fax (03) 3433-6659

E-mail: shibu@tokyo.ieice.org

<http://www.ieice.org/tokyo/>

